

## 創世記 第1章 28節

現在のような状況になる少し前から、「ペットや家畜は除いて、人間以外の被造物は人間なしでも生きていくことができる。とするならば、被造物にとって人間の存在とはいったい何なのか」ということを問うてきた。創世記に人間の被造物に対する使命が書かれているものの、到底それを果たし得ていない世界をみたときに考えさせられたことである。

そして今の状況。

人間以外にとっては非常に良い環境になっているというのが事実かもしれない。医療や生活で使い捨てのものが激増しているであろうことは懸念としても。

例えば、世界中の航空機が減便され、自動車の利用が減ったことにより化石燃料の使用量が減り、排出される二酸化炭素が減っている。人間によって荒らされてしまった被造物に対して神が回復の期を与えているのかもしれない。

そして人間にとっても「回復」の好機なのかもしれない。